

戸田市内水ハザードマップ Q&A

令和8年4月

1. 内水ハザードマップとは？

下水管や水路の排水能力を超える大雨等によって、地表に水があふれる「内水氾濫」が発生した場合に想定される浸水区域や浸水深などのさまざまな情報をまとめたマップです。

2. 内水ハザードマップが必要な理由は？

下水道の整備を進めていますが、近年では下水道の能力を超える雨が降ることが多く、下水道の整備だけでは対応しきれません。そこで想定し得る最大規模の大雨が降った際の地域の水害に対する危険性をお知らせし、市民の皆様が避難等の対策を講じていただけるように、浸水の危険性がある区域等を記載した内水ハザードマップを作成、公表しております。

3. これまでの内水ハザードマップ（H31年3月作成版）との違いは？

これまでの内水ハザードマップは、既往最大降雨（H17年9月・1時間あたり71.5mm）を対象とした内水氾濫による浸水範囲を想定したものです。今回の内水ハザードマップは、想定し得る最大規模の大雨（1時間あたり153mm）が戸田市全域に降り、かつ放流先河川の水位が高い場合を想定して浸水シミュレーションを行い、浸水想定区域を作成しました。

4. 想定し得る最大規模の降雨はどのように算定したのか？

想定し得る最大規模の降雨は国の基準により定めており、関東地方においては、1時間あたり153mmの雨量を基準とすることから、戸田市の既往最大降雨（H17年9月）の波形（内水ハザードマップ上段参照）を用いてピーク1時間の雨量が153mmになるよう引き伸ばして算出しています。

5. マップの配色が赤色系統に変わったのはなぜか？

国の規定により、色覚障がいがある人への配慮等によりこの配色としています。印刷したマップはありませんが、戸田市ホームページにおいて、以前と同じ青色系統の配色のマップも掲載していますので、併せてください。

6. 浸水深1.0m以上となっている箇所はどこにあるか？

1.0m以上については、主にアンダーパス（地下道）が該当しますが、注意喚起の表示により見えなくなっています。そのほか、笹目、美女木、新曽の限られた箇所となります。

7. 過去の浸水実績は反映されているのか？

今回の内水ハザードマップは、浸水シミュレーションにより浸水想定区域を作成したものであるため、過去の浸水実績は反映しておりません。

8. 前回表示されていた過去に冠水した場所及び地形的に浸水しやすい箇所の表示がなくなったのはなぜか？

過去に冠水した場所については、通報があったものやパトロール時に確認されたものの記録であり、冠水箇所全てを表示できないため、掲載しておりません。また、地形的に浸水しやすい箇所については、シミュレーション結果により着色されていることから掲載しておりません。

9. 北大通り雨水貯留管などの浸水対策の施設は反映されているのか？

令和7年度末時点の施設（一部整備中含む）を反映しており、完成した北大通り雨水貯留管の効果も考慮し、シミュレーションを行っております。なお、北大通り雨水貯留管は既往最大降雨（1時間あたり71.5mm）を対象とした対策であり、今回の想定最大規模の降雨を対象としたシミュレーションでは浸水が予想される箇所があります。

10. 浸水が想定されない箇所は安全か？

想定される浸水区域や浸水深は、雨の降り方や土地の形状及び河川・下水道の整備状況などにより変化するため、大雨の際には注意してください。

11. 水防法に基づく内水ハザードマップか？

平成27年に改正された水防法に準拠し、想定最大規模の降雨を対象に作成しておりますが、浸水想定区域を指定していないため、水防法に基づく内水ハザードマップではありません。